

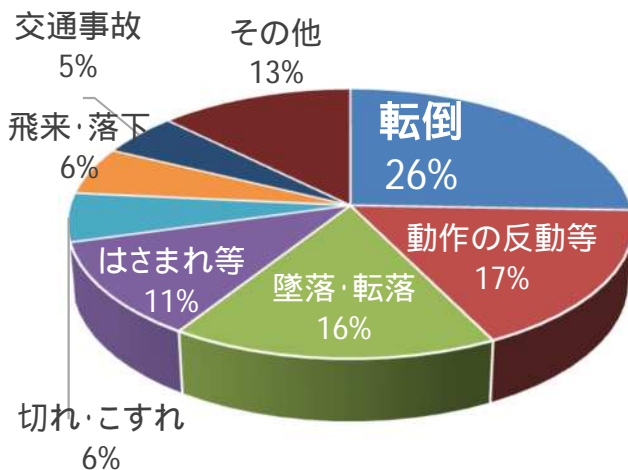
# 冬期の転倒災害を防止しましょう！

～毎年12～2月は転倒災害が多発しています～

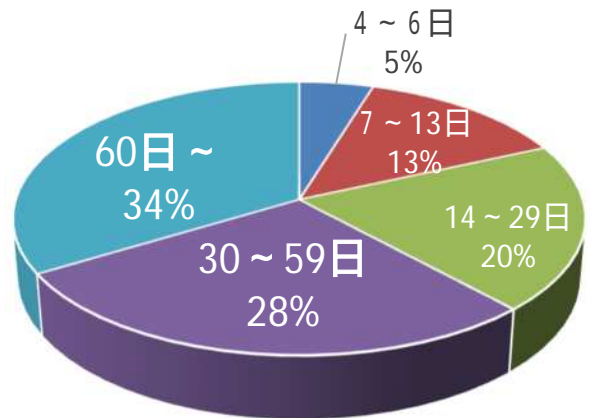
甲府労働基準監督署における令和元年～5年の5年間ににおける労働災害（休業4日以上）のうち、**4分の1が転倒によるもの**です。また、転倒災害のうち6割以上が休業1か月以上の災害に至っています。さらに、転倒災害は冬期間に多く発生する傾向があり、降雪の多い12～2月には、**積雪・凍結による転倒災害が多発**しています。

## 労働災害（転倒災害）の発生状況

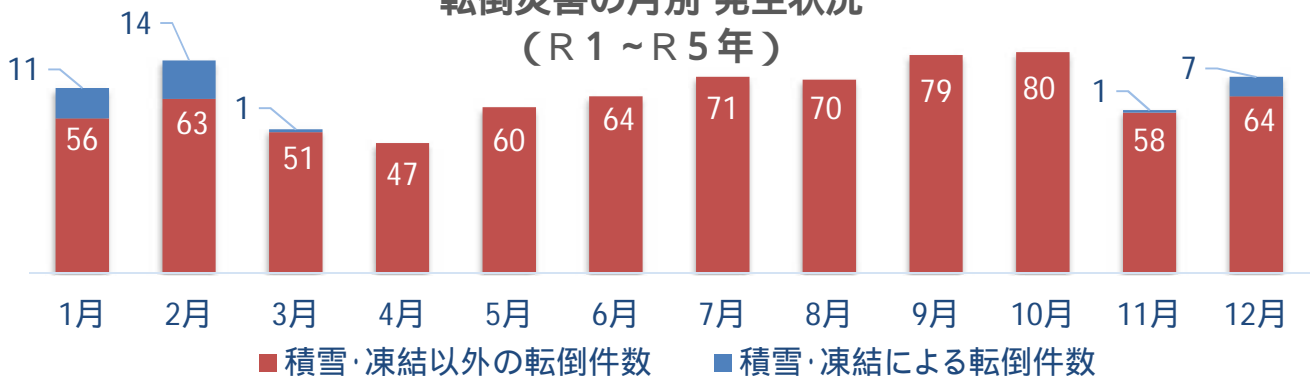
事故の型別 発生状況  
(R1～R5年)



転倒災害の休業日数別 発生状況  
(R1～R5年)



転倒災害の月別 発生状況  
(R1～R5年)



転倒による災害は軽く済むイメージがありますが、実際には骨折等を伴う災害も多発し、休業が2～3か月に及ぶケースもあります。

さらに冬期は、積雪・凍結などの転倒災害のリスクが高くなります。

～あせらない 急ぐ時ほど 落ち着いて～

## 転倒災害事例

- ・敷地内の職員駐車場に車を止め、車から降りて建物内に向かう途中、前日の積雪が20cmほどあり足を滑らせて転倒し、左手を骨折した。  
(介護施設、50代女性、休業1か月)
- ・会社の敷地内に設置してあるコンテナにごみを捨てに行ったところ、コンテナの前に氷が張っていることに気づかず転倒し、肘を骨折した。  
(製造業、40代女性、休業2か月)
- ・バイクでのピザの配達が終わりに、駐輪場へ戻ってきたところ凍結面に乗り上げて転倒し、肩を打ち鎖骨を骨折した。  
(飲食店、20代男性、休業1か月)

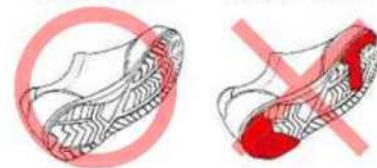
## 冬期の転倒災害防止のポイント

冬期は、降雪、凍結した通路などで転倒し、負傷する労働災害が多く発生していますので、下記の対策を講じて下さい。

### 通路などでの対策

- ・降雪した通路は、除雪し、凍結した通路などは融雪剤などを散布し、安全通路の確保を行うこと。
- ・滑りにくい靴を使用すること。
- ・あせることなく急がず、ゆっくりと小さい歩幅で、靴の裏全体をつけて歩行すること。
- ・服のポケットなどに手を入れ、両手に物を持ち歩行しないこと。
- ・会社内敷地、駐車場などで過去に滑った場所、ヒヤリハット情報で得た場所などの職場の「危険マップ」を作成し、労働者に周知すること。

靴底の凹凸あり 靴底の凹凸が減少



### 気象情報の把握など

- ・気象情報(積雪、凍結など)を把握し、早めに労働者に周知し、対策を講じること。
- ・天候が悪化し、交通機関に遅れなど予想される場合、休日、勤務時間、出張などの変更を検討すること。
- ・警報、注意報などでの対応マニュアルを作成し、会社内で周知すること。

### 高齢労働者における転倒防止対策

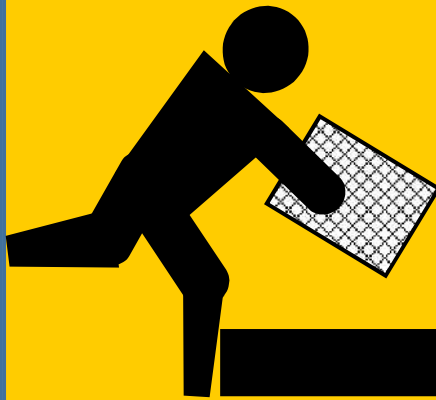
- ・身体機能の低下を補填する設備(明るさの確保、滑り止めの設置など)の対策を講じること。
- ・柔軟性、筋力を高めるストレッチ、運動などを取入れ基礎的な体力、生活習慣の改善に取り組むこと。



すべりやすい箇所、段差の箇所などに下記の標識を参考とし、「安全見える化」を行って下さい。



凍結注意



段差注意



雪道すべり注意



ながらスマホ禁止



傾斜注意



ふみはずし注意



水分・油分注意



あせり・急ぎ注意



ポケットに手を入れて歩く禁止

# 自主点検を行いましょ

転倒災害防止のため、下記のチェックリストをチェックし、改善内容があれば早急に改善し、労働災害防止に努めましょ。

## チェック項目

1	積雪、凍結時に転倒のおそれのある場所を認識していますか？	
2	除雪用具、融雪剤、転倒防止用マットなど準備していますか？	
3	滑りやすい場所などを危険場所として「安全見える化」していますか？	
4	ヒヤリハット情報を活用して、危険マップを作成し、周知していますか？	
5	「ながら歩き」、ポケットに手を入れたまま歩くなどを禁止していますか？	
6	滑りにくい靴や手袋の着用を推奨していますか？	
7	降雪、凍結前に、転倒を防止するための教育等を実施していますか？	
8	降雪、気温に関する気象情報を把握し、注意喚起を行う体制を確保していますか？	
9	安全に移動できるように十分な照度を確保していますか？	
10	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか？	
11	時間に余裕をもって歩行、作業を行っていますか？	
12	駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などにも注意していますか？	